



花コミQ&Aサイト

はなせんせ*

植物情報をデータ化し共有化を図ることで社会に貢献しています

主催：NPO法人栽培植物分類名称研究所(CULTA)
<http://aboc.co.jp/culta/>

- 登録会員約 14,000 人*
- 投稿数約 117,000 件
- 3万種類の植物検索
- 利用無料!!

「はなせんせ」サイトでは

サイトの利用には会員登録(下記)が必要です

- ◆クローズアップ写真を掲示板(BBS)に投稿すると……
 - 全国の「はなせんせ」が名前を教えてくれる。
 - 投稿を機に全国の花好きと楽しいトークがはじまります。
- ◆「3万種類の植物百科事典」に花の名前を入力すると……
 - 写真、植物画、特徴、分布、などなどの情報を閲覧できます。
- ◆過去の質問や写真も自由に検索できます。
- ◆「あなたの花運」「植物名入門」「特別頒布」なども展開中。

登録方法……(無料)

— 会員になるとサイトをご利用できます。



- 下記の①②③いずれかの方法でアクセスしてください。
- 使用機種はDoCoMo、au、Softbankの画像が表示できるものです。
- すぐに自動返信メールが届くので、案内に従って登録手続きを行います。

- ① 右上のバーコードを読み《URL》をクリック～手続～登録完了→
- ② 空メールを《m@abocj.jp》へ送る～手続～登録完了→
- ③ 《http://abocj.jp》に直接アクセス～手続～登録完了→

ようこそ
はなせんせ
サイトへ



PCとケータイの両方で利用できます
<http://abocj.jp>

※(2008.8.25現在)

「はなせんせ」紹介記事

無料携帯サイトで花の情報やりとり 鎌倉の会社・NPO法人 画像を提供 植物を検索

■鎌倉市に本社を置き、植物事典の出版などをする「アボック社」（毛藤満里子社長）と、同社に事務局があるNPO法人「栽培植物分類名称研究所」（理事長・大場秀章東京大学総合研究博物館教授）が、無料で利用できる植物情報専用の携帯電話サイト「はなせんせ」＝写真＝の運用を始めた。利用者同士で花の名を教え合ったり、花の画像などを提供したりするもので、花好きの人の話題になりそうだ。●散策の途中で名前を知りたい植物を見つけた場合、メールでその植物の写真をサイト掲示板に送ると、それを見た他の利用者が、植物名などの情報を掲示板に送って教える仕組み。●この掲示板機能以外にも、2万種類の園芸植物や野生植物の説明、写真、植物画の情報を、植物名を入力することで検索し、見ることもできる。いわば、植物図鑑の携帯電話版だ。●同社では、利用者からの情報提供で新たなデータ蓄積もでき、無料で社業にプラスになると判断した。利用は「はなせんせ」（<http://www.abocj.jp>）から会員登録が必要。●問い合わせ先は同社内の事務局（0467・45・5119）。[読売新聞（湘南版）、2005年6月24日]

植物の名 携帯で知る利用者同士が情報交換

■ガーデニングや中高年の山歩きブームを背景に、植物の名前をすぐに教えてもらえる携帯電話専用の植物情報サイトが開発され、愛好家の話題になっている。植物の写真やサイトを掲示板に送って掲載し、利用者同士が「先生」になって教え合うもので、その名も「はなせんせ」＝写真＝。携帯電話版植物図鑑と言え、近畿でも176人が会員登録しているという。●開設したのは、植物事典の出版などを手掛ける「アボック社」（神奈川県鎌倉市、毛藤満里子社長）と、同社に事務局を置くNPO法人「栽培植物分類名称研究所」（理事長＝大場秀章・東京大学総合研究博物館教授）。●山野や街角で見つけた花や草木の名前を知りたい人に、その場で疑問を解消してもらおうと同社が計画。植物の専門家も多い同研究所が協力を申し出て、6月末に運用を始めた。●利用者がカメラ付き携帯電話で撮影した植物の写真を掲示板に送信すれば、他の利用者から、名前や栽培方法などを掲示板を通じて教えてもらえる。利用は無料で、全国で1288人が会員登録している。●利用するには「はなせんせ」（<http://www.abocj.jp>）から会員登録が必要。[読売新聞大阪本社夕刊、2005年8月4日]

ぶらりネット 花や木撮ってメールで質問

■春らんまんである。花が咲き、新緑は輝く。その植物の名前がわかっただけでも楽しい。これまでならポケット図鑑を持って、という話になるのだが、いまは携帯電話があればいい。●携帯電話付属のカメラで、興味がわいた花や木の写真を撮って、携帯専用サイトのはなせんせ（<http://www.abocj.jp>）の電子掲示板に投稿すれば、名前を教えてくれる。●最初の接続のときにニックネームなどを登録し、あとは無料で利用できる。植物になじみがなくても手軽に使える。植物の専門家たちが質問を見て、簡単な場合はすぐに、悩むようなケースでも2、3日で必ず答えが返ってくる。投稿者は写真だけでなく、見つけた場所や季節、野生か園芸植物か、生育環境などの情報も書き込む。●「チューリップの仲間だと思うんですけど……」などのコメントもつけていい。●こうした情報を総合的に判断すれば、画像が小さくても何の花や木なのか、専門家にはわかるという。素人が植物図鑑をめくっても、あれかこれか迷いがち。携帯電話の向こうの専門家の方が安心感がある。●名前がわかれば巨大なデータベースが使える。野生植物約5千種、鉢物、観葉、花壇苗など市販の植物約1万5千種の計2万が網羅されている。●たとえば、ヤマザクラで検索してみると、花などの写真が15枚＝写真＝、シーボルトコレクションに収録された植物画もある。分布情報や育て方も書いてある。白山桜とも呼ばれ、吉野山が名所、ということまでわかる。●昨年6月にスタート、登録者は3300人。運営主体は、特定非営利活動法人「栽培植物分類名称研究所」（理事長、大場秀章東京大学総合研究博物館前教授。植物学、園芸、造園の専門家が支えている。●事務局長の森弦一さんは植物や自然史などが得意な編集者。「植物も友達と同じです。正確な名前前で呼んで親しんでほしいです」と話す。（平子義弘）[朝日新聞「be on Sunday」、2006年4月9日]

「この花なに？」 携帯で手軽に「はなせんせ」道内でも人気 掲示板で回答

■街角ですてきな花に出合った。でも名前が…。そんな時、カメラ付き携帯電話で植物を撮影し送信すると、名前が分かる無料携帯電話サイト「はなせんせ」が愛好家の人気を集めている。サイト登録者が植物名を教え合う仕組みで、開設一年で全国の登録者は約七千二百人に上り、道内からも二百人近くが登録している。●サイトは、植物事典出版などを手掛ける「アボック社」（神奈川県鎌倉市）と、特定非営利活動法人（NPO法人）「栽培植物分類名称研究所」（同）が昨年六月に開設。これまでに二百万件以上のアクセスがあった。●投稿者は、写真とともに、例えば「昨年九月に空蘭の地球岬で見つけました」などと、見つけた時期や場所、生育環境などの情報を添えてサイトの電子掲示板に送信する。すると登録者は掲示板に「キョウウツリツリガネニンジン属ですよ」などと返答。「地球岬の名前に合うすてきな花ですね」などのコメントも寄せられる。●登録者には植物学や園芸、造園の専門家もおり、遅くとも二、三日で必ず名前が判明するという。名前が分かれば、同サイト内の二万種類以上の野生植物や園芸植物のデータベースで、より詳しく調べることができる。まさに「世界最小の携帯植物大図鑑」（アボック社）だ。●道内で撮影した花の名前を知るための写真投稿はこれまで百件近く上っており、同社社長の毛藤園彦（もうとうくにひこ）さん（62）は「高山植物をはじめ北海道は花の宝庫。恵庭の花のまちづくも全国的に有名で、道民は花を愛でる心が豊かだと思う。北海道の人々も花コミュニケーションを楽しみませんか」と呼び掛けている。[北海道新聞、2006年8月21日]

花の名前 画像送って明解

■会員が教え合うサイト人気 ●秋の花が咲くこの時期、見知らぬ花の名前を知りたいと思う人は多いはず。最近では、デジタルカメラや携帯電話で撮影した画像を送り込めると、草花の名前を教えてくれるサイトが人気を集めている。●NPO法人栽培植物分類名称研究所（神奈川県・鎌倉）は今年5月、草花の画像をメールで送ると名前を教えてくれるパソコンのサイト「はなせんせ」（<http://www.abocj.jp>）を開発した。会員が互いに名前を教え合う仕組みだ。●たとえば、投稿されたピンク色の葉の画像をめくり、「花によい香りがあればボタンサギでしょう」「花の形がまん丸なのでアリウムのギガンチュムでは」などのやり取りがサイト上で展開された。葉の形から、ボタンサギとわかった。●同研究所は2年前、携帯電話向けに「はなせんせ」を設けた。大きな画面で見える方が花の名前を特定しやすいため、さらに内容を拡充してパソコン版を開発した。●同研究所副所長の森弦一さんは「草花の名前を教え合うことを通じて、花を愛する人同士のコミュニケーションの輪を広げたい」と話す。●名前を教えってもらうには、メールアドレスを登録して会員になることが条件。サイト利用料金はかからない。携帯電話版とパソコン版を合わせて会員約1万人。パソコン版はシニア層の利用も多い。[読売新聞（朝刊「くらし面」全国版）、2007年11月7日]

この花なあ〜？ 携帯電話サイト「はなせんせ」 草花の緑 交流開花

■身の回りの草花の名前や情報を教え合う植物情報専用サイト「はなせんせ」が人気を呼んでいる。2年前のサイト開設以降、会員は約9000人、アクセス総数は約390万件を超える。今月からはパソコンでの参加も可能になり、より身近に植物を楽しむことができそうだ。●サイトを開いているのは、植物事典などの出版を手がける「アボック社」（神奈川県鎌倉市）と、同社に事務局を置くNPO法人「法人栽培植物分類名称研究所」（理事長、大場秀章・東京大学名誉教授）。●名前のわからない草花を携帯電話のカメラで撮影し、写真を同サイトの掲示板に送って掲載。この写真をもとに、利用者同士が名前を教え合う仕組みで、気軽に情報交換ができるのが特徴だ。●法人事務局長の森弦一さんによると、利用者は30～50歳代が多く、男女比はほぼ半々。また「自分が育てた花を見てもらいたい」と画像を掲示板に載せる人も多く、森さんは「手塩にかけて育てた花に対し、別の会員からコメントが寄せられることに喜びを感じているようです」と説明する。●パソコンから参加できるようにしたのは、「携帯電話よりパソコンの方が操作しやすい」「花の写真大きな画像で見たい」といった要望が多かったため。掲示板に掲載し、名前を教え合うという仕組みは携帯サイトと同じ。●パソコンならではの利点もある。携帯電話の画面では1枚の画像しか見れないが、パソコン画面では20枚以上の画像を並べて見ることが可能。画像は新着順に掲載されており、様々な花の開花情報を知る〈花暦〉としても利用できる。●森さんは「より多くの人に、花を通じたコミュニケーションを楽しんでもらえれば」と話している。●両サイトとも利用無料だが、携帯電話から会員登録する必要がある。アドレスは携帯、パソコンともに<http://www.abocj.jp> [読売新聞「草花の緑 交流開花」、2007年5月31日]